**大好き鳶巣！住んでよかった鳶巣！**
**元気！やさしさ！しあわせあふれるまちとびす**
出雲市　鳶巣コミュニティセンター

## 1　鳶巣地区の概要

鳶巣地区は出雲市の北方に位置し、地区内には、鳶巣幼稚園、出雲北陵中学・高等学校、島根県立大学出雲キャンパスなどの教育施設や北山健康温泉、いこいの郷などの健康福祉施設がある。

世帯数 491 戸、人口 1,565 人、高齢化率 31%。独居高齢者、高齢者夫婦世帯が増えつつある一方で、0～15 歳の子どもの占める割合が 15.5%と高い地域である。

出雲市のコミュニティセンターは、地域交流活動拠点として生涯学習を展開するとともに、地域の人づくり、まちづくりを推進する拠点として位置づけられ、鳶巣地区では「健康と福祉、文化とスポーツのまちづくり」を目標に掲げ様々な事業を展開している。

地域づくりの活動拠点として一番の役割は、人々が心身共に健康で、生涯を通じて生き生きと暮らし、住み良い地域社会づくりを進めることだと考えている。

## 2　事業の趣旨

鳶巣地区は、少子・高齢化の進行や若年層の流出などで、10 年後には約 50 人の人口減少が見込まれる。（20 年後は 100 人減の予測）とりわけ、20 代～30 代の年齢層は激減する数字が出ている。

そうしたことを踏まえ、鳶巣コミュニティセンターは、平成 23 年度まで地域力醸成プログラム事業の助成を受け、ソーシャルキャピタルの醸成と地域力の向上に向けた人づくりに力を入れてきた。

また、平成 26 年度からは、先の 10 年を見越し、各種団体と協働で様々な事業を行ってきた。特に、地区の一大イベントである「夏の鳶巣まつり」への参加をきっかけに、若者の地域参画を促し、次世代の人材育成へと繋げてきた。

一方、鳶巣地区の子どもや若い世代は、インターネットやマルチメディアの時代にあって、外遊びや自然体験不足、親子のふれあいなどが減っている現状にある。また、平成 14 年に発足した「よさこい」をとおした若者のまちづくりが、後継者不足などのため、活動が衰退傾向にある。

子どもたちや若い世代には、コミュニケーション能力の低下、対人関係、活動意欲などの低下、積極的にリーダーになりたくないなどの傾向もみられる。加えて、自然体験活動やボランティア活動の多いボーイスカウトにおいても、部活などにより、参加する小学生の減少や指導者不足があるとともに、青少年育成協議会でも役員の体制、機能が充実していない現状もある。

以上のことを踏まえ、今年度、次代を担う人材育成を地域の課題と捉えた本事業をとおして、地域がより深く協働することで、若者が自信をもって「大好き鳶巣、住んでよかった鳶巣」と言える魅力あるふるさとづくりを創出していきたいと考えた。

そして、地元定着を促進し、地域の未来創生に繋げることを目的とした「５事業」を展開した。

今年度「夏の鳶巣まつり」が 30 回記念大会を迎える。若いスタッフを中心に企画を練り上げる中、様々な事業を多世代が協働で地域の「ひと・もの・こと」の素晴らしさを再認識できる歴史写真集も合わせて編纂することで、未来に繋がる持続可能な地域づくりへと繋げたい。

## 3　具体的な取り組み内容

(1) 研修（青少年の主体性を育む地域の取り組み）
松江市玉湯公民館　「たまめん」活動紹介・手法を学び、コミセンカフェを立ち上げる。

（コミセンカフェハナミズキ）

(2) よさこいをとおしたまちづくり
（青少年・親子ボランティア意識向上）
(3) 未来へ繋がる夏の鳶巣まつり
10 年後開けるタイムカプセル作成
(4) 歴史写真集の編纂　ＤＶＤ作成
(5) 三瓶歩くスキー宿泊体験

## 4　評価と成果

それぞれの事業主体は、夏の鳶巣まつり企画委員

会、歴史写真集編纂委員会、青少年育成協議会などが行い、コミュニティセンターは事務局を担った。

松江市玉湯公民館研修をきっかけに、コミセンカフェに関心ある人が集まり、知恵と力を出し合い、10 月 22 日にオープンした。カフェを作り上げていく過程において、地区のあらゆる人々が参画し、自主的、自発的に運営に至る自らの地域課題を解決する過程は、まさに地域力の賜物であったと考えている。

また、地区に商店が一つもない地域特性を踏まえ、コミュニティセンターにカフェという居場所が出来たことで、「地域の拠点」として、いつでも、だれでも気兼ねなく集まれる場所づくりを進めることができる環境ができたと考えている。

（みんなで作る夏まつり　地域の人々が主体）

今回の事業全てが、10 年後、20 年後をめざした事業である。大人も子どもも夢を持ち、地区が更に団結し、地域力向上に繋がることを期待しているので、事業主体は、地域のみなさん。テーマ設定や企画段階から参画してもらった。

「皆で何とか事業を成功へ導きたい！！盛りあげたい」という気持ちが高まり、どんな想いで事業を作りあげるか、鳶巣の素晴らしいところはどこかなどを話し合う度に「やっぱり鳶巣が大好き！！」という想いが強くなっていった。

今年度事業のふりかえりとして、カフェ関係者、夏まつりスタッフ、ボーイスカウトの子どもたちが集い、めざす鳶巣の姿（像）や、次回の夏まつりへの要望など、大人と子どもが話し合う場を作った。この交流の場での意見交換が大変良かったと後に感想をもらった。事業へのヒントや提案、意見を踏まえ、次年度事業に取り入れ、地域の人々が自ら動き、地域を作る基盤が出来たと思うと同時に子どもにも地域の想いを伝えることの大切さを学んだ。

交流会は、未来へ繋がるきっかけとなり、「大

（子どもと大人と意見交換）

好き鳶巣！」「住んでよかった鳶巣！」の想い、団結力、地域の絆が更に強まったように思う。

## 5　今後の課題と見直し

まず、地域の人々と地区の課題、事業の課題を明確にし、共有することで、コミセン職員だけでなく、誰もが参画し、地域を作り上げていく意識を醸成したい。また、子どもたちにもことあるごとに想いを伝えていきたい。

そして、事業で繋がった人から人への縁の輪を更に広げ、コミュニティセンター事業の根底に流れる「協働事業」を今後も展開していきたいと考えている。

（総合司会は小学生。10 年後が楽しみです）

（文責：チーフマネージャー　山﨑順子）